

令和2年 **12**月の**思いやり**通信

目次

- (1)  オムロンなどCO₂ 2割減 昨年度排出量 再生エネ活用
- (2)  SDGs 2030年までの達成目指す
- (3)  CO₂ 地下貯留で連携 日米豪とASEAN
- (4)  遠い「再生エネ先進国」 昨年度比率18% 欧州の半分

エコライフ - バルコニー・ベランダ

- (1)  **オムロンなどCO₂ 2割減 昨年度排出量**
再生エネ活用

*2019年度の温暖化ガス排出を前年度比で減らした企業は全体の42%。

オムロンなど約20社で削減幅が2割に。

*オムロンは2019年度の二酸化炭素（CO₂）排出量を前年度より22%減らしました。

*サッポロホールディングスも2割削減を達成。

*リコーは供給網と一体となって2030年までにCO₂排出量を20%減らす目標。

(2020年11月17日 産経新聞記事より抜粋・引用)



- (2)  **SDGs 2030年までの達成目指す**

*国際社会が協働して地球規模で取り組むべき目標。

*2015年9月の国連サミットで採択。

*世界全体で2030年までの達成を目指します。

*経済や社会、環境などの分野における17のゴール（目標）と、関連する169の具体策などで構成。

SDGsの主な目標と関連する分野

環境	<ul style="list-style-type: none">・エネルギーをみんなに、そして、クリーンに・気候変動に具体的な対策を・海の豊かさを守ろう・陸の豊かさも守ろう
経済	<ul style="list-style-type: none">・働きがいも経済成長も・産業と技術革新の基盤をつくろう・住み続けられるまちづくりを・つくる責任、つかう責任
社会	<ul style="list-style-type: none">・貧困をなくそう・飢餓をゼロに・すべての人に健康と福祉を・質の高い教育をみんなに



(2020年11月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) CO₂ 地下貯留で連携 日米豪とASEAN

実質ゼロへ有力手段

*日米豪と東南アジア諸国連合(ASEAN)各国が、二酸化炭素(CO₂)を地下に埋め大気中への排出を減らす事業で協力。

CCUS(CO₂の回収・利用・貯蓄)と呼ばれる技術。

*国際エネルギー機関(IEA)は、2070年に世界のCO₂排出削減量の15%をCCUSが占めると予測。

CCUS 稼働・計画、世界で80件

*CCS:火力発電所などから排出されるガスから二酸化炭素(CO₂)を分離して回収・貯蓄する技術。

*CCUS:回収・貯蓄するだけでなく、CO₂を有効利用することも加えた技術。

*世界で約60件のプロジェクトが進行中で、約20件が稼働。

(2020年11月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4)  遠い「再生エネ先進国」 昨年度比率 18%

欧州の半分 「排出ゼロ」ハードル高く

*日本の2019年度の発電量に占める再生可能エネルギーの割合は、前の年度から1.1ポイント上昇の18.0%と、4割前後に達する欧州主要国の半分程度の水準。

*日本の再生エネの比率の半分弱は水力。太陽光は4割弱、風力はわずか4%。

*再生エネの比率はドイツが42%、英国は39%、スペインが38%、中国は28%。

*欧州連合(EU)の脱炭素シナリオ:再生エネの割合が2050年に81~85%になると想定。その多くを太陽光と風力で賄います。原発の割合は12~15%と想定。

*日本の原発の2019年度の比率は6.2%で前の年度からほぼ横ばい。政府目標は2030年度20~22%。

*2019年度の発電量のうち火力発電は8割弱。

*火力発電からのCO₂排出量は、日本全体の約4割。

(2020年11月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



 **エコライフ - バルコニー・ベランダ**

*バルコニー：室外に張り出した、屋根がなく手すりがついたもの。多くが下の階の屋根になっています。

*ベランダ：室外に張り出した、屋根のあるもの。

*バルコニー、ベランダともに、軒のように太陽の光を遮るものとして使うことができます。1階に大きな窓がある場合、その上にバルコニーを設置することで、その大きな窓から夏の日射が侵入するのを防げるようになります。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋)

